

令和6年度三重県沿岸種資源評価

ガザミ

資源水準・動向

中位・減少

生物情報

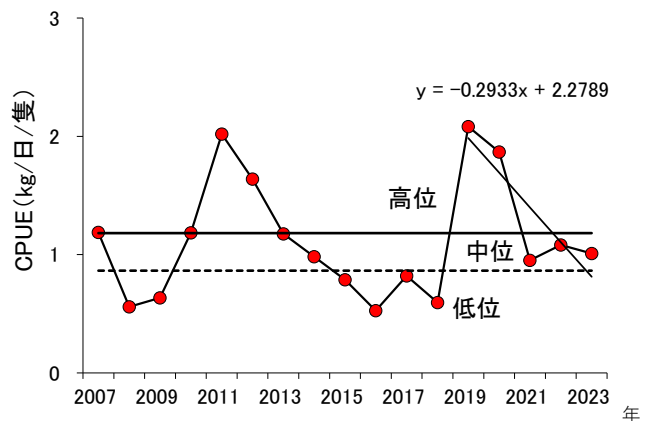
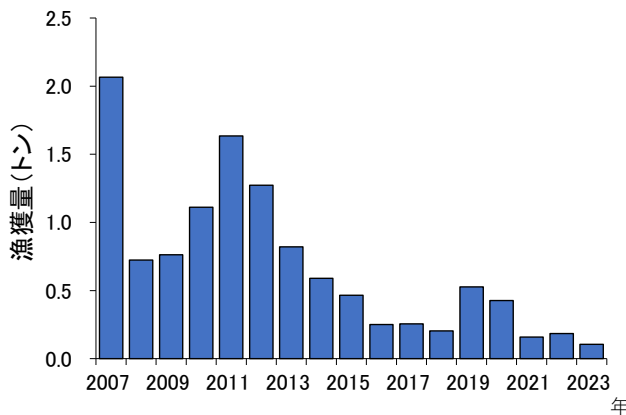
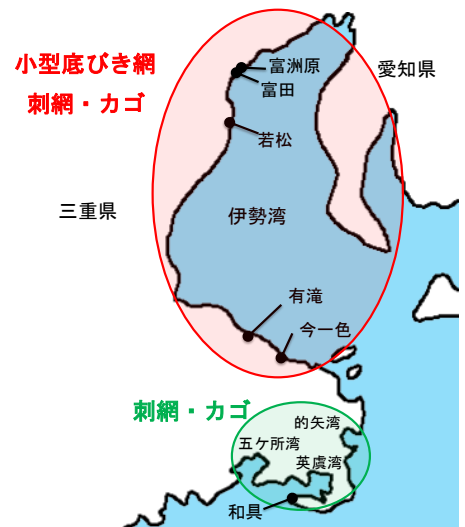
- ・内湾または内湾近くの水深5～30mの砂・砂泥底に生息する。
- ・外卵雌の出現は4～9月で、盛期は6～8月である。多回産卵を行う。
- ・寿命は2年、まれに3年以上生きる。

漁業の特徴

- ・伊勢湾で漁獲されるほか、英虞湾、五ヶ所湾、的矢湾などで漁獲される。主に小型底びき網、刺し網、カゴで漁獲される。
- ・伊勢湾での漁獲量が多く、四日市市、鈴鹿市、伊勢市で県全体の7割の漁獲量を占める。
- ・地域により様々な呼び名があり、よく使われるワタリガニのほか、アミキリ、ホンガニ、テッポウガニなどとも呼ばれる。

資源状態

- ・伊勢市有滝地区の小型底びき網のCPUEから資源水準は「中位」とした
- ・伊勢市有滝地区の小型底びき網の直近5年間のCPUEの推移から資源動向は「減少」とした。



資源管理の取組

- ・小型底びき網(まめ板)の定期休漁、操業日数の制限、数量制限が行われている。
- ・自主的な取組として、抱卵ガザミの再放流が行われている(四日市市漁協)。

将来考えられる資源管理の取組

- ・成長が早く、地域性が強いガザミは、現在行われている種苗放流に加え、小型個体の再放流の実施が有効と考えられる。
- ・一部の地域で行われている抱卵ガザミの再放流や保護も重要な取組になると考えられる。